

教育方針	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた、心身共にたくましい生徒を育成する。	重点目標	情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する — 精神を修め、知と技を練る吉田高校 —
-------------	---	-------------	---

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	担当	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均3.6以上 (1から4の4段階評定)を達成する。 A : 3.6以上 B : 3.3以上 C : 3.0以上 D : 2.5以上 E : 2.0未満	A	生徒の授業満足度は、「授業評価アンケート」によると教師の行う授業に対しては平均3.8、生徒の自己評価が平均3.7という結果になった。目標の平均3.6を上回る結果となった。	全学年、新学習指導要領に基づく観点別評価となるため、研究を更に進める。また、生徒のやる気高めることが意欲につながり、それが分かりやすい授業につながる。よって、やる気を出させる工夫をし、授業満足度を高水準にとどめる。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、考査時学習時間平均120分以上を目指しながら、主体的に学ぶ力を付ける。 A : 60分以上 (考査時120分) B : 50分以上 (考査時100分) C : 40分以上 (考査時 80分) D : 30分以上 (考査時 60分) E : 30分未満 (考査時 60分)	B	平常時学習時間は、普通科58.3分、機械建築工学科29.3分、電気電子科52.3分、平均49.5分であり、考査時学習時間が普通科187.1分、機械建築工学科107.3分、電気電子科133.5分、平均152.3分であった。	各教科での目標設定と課題の出し方を工夫し、毎日の授業の振り返りと予習・復習を習慣化させ、「主体的に学ぶ力」をつけさせる。また、課題におけるICT機器の活用を更に研究する。
	読書習慣を身に付けさせるとともに地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の間貸出冊数一人当たり3冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A : 45日以上 B : 40日以上 C : 35日以上 D : 30日以上 E : 30日未満	C	一人当たりの貸出冊数は、2.2冊(R6.2.1現在)で、目標には達していない。 朝読書は学期に1回実施して、45日以上の間確保の目標は達成した。	図書館利用の環境を整え、授業やホームルーム活動などでも利用促進を図る。図書委員会を中心として、朝報や全校集会などを通じ、次年度も継続して読書活動への啓発を行う。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	年間出席率平均98%以上、一か年皆勤率55%以上、年間欠席日数5日以上の者5%以内を達成する。 A : 98%以上 B : 95%以上 C : 90%以上 D : 80%以上 E : 80%未満	C	年間出席率97.3%、一か年皆勤率28.8% (皆勤者85名)、年間欠席日数5日以上の者25.8%	基本的な生活習慣の意識付けをし、保護者へも周知していく。心にゆとりを持たせる指導を心掛けていく。健康課題にも目を向け、心身ともに健康な状態が作れるように取り組む。
	挨拶・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	身だしなみ指導において、年6回すべて最終合格率100%、登下校時の交通事故0件を達成する。 A : 100% B : 80%以上 C : 65%以上 D : 50%以上 E : 35%未満	B	特に頭髪の基準を守れず、最終合格できない生徒がいた。交通事故は0件であった。	身だしなみや交通マナーについて、日々の生活の中で意識させる。着こなしセミナーや交通安全教室を通して意識の向上を図る。委員会活動を活発化させ、生徒の意識を高めていくことを継続して取り組む。
	部活動・学校行事の充実	部活動加入率95%以上、県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上、生徒の学校行事満足度平均3.6以上 (1から4の4段階評定)を達成する。 A : 95%以上 B : 85%以上 C : 75%以上 D : 65%以上 E : 65%未満	A	部活動加入率は95.9%。部活動成績では第2回POLUS木造住宅インターハイ (全国4位)、R5ものづくりコンテスト県1位・県2位、四国1位・2位、全国2位、全国若年者ものづくり銅賞、全日本U-18フットサル選手権大会県1位・四国大会出場。学校行事満足度は3.5であった。	部活動の様子をホームページなどを通じて紹介する。学校行事では地域とコラボした活動を増やしていく。生徒たちが自発的に活動し、楽しい学校生活になるように生徒会を中心に企画を充実する。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	生徒一人一人の適性に応じた進路指導の充実	就職試験一次合格率90%、就職決定率100%、第一志望校合格率90%、進学決定率100%を達成する。 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満（合格率）	A	学校紹介による就職希望者29名の全員が決定しており、一次合格率・決定率ともに100%となっている。進学希望者51名のうち、第一志望に不合格となったものが4名で第1志望合格率は92.2%、進学決定率は100%となった。また、大学入学共通テストに11名が受験し、国立大学に4名合格した。これは、平成20年度と並び、この30年余りでは、最高になった。松山大学にも、延べ20名の合格者を出して6名が進学した。今年度は、目標以上の大きな成果を上げることができた。	ここ数年求人状況が好転し、売り手市場が続く、本校生徒も就職試験の一次合格率は上昇している。しかし、早期の離職者は、依然として多く、ミスマッチを防ぐ指導を行う必要がある。進学に関しては、ようやく学習習慣や進学補習が定着し、総合型選抜等に頼らず、学力試験で受験できるようになりつつある。さらに、日々の授業や補習の質を高め、学力を高める指導を継続することが大切である。特に、模試受験者の主要3教科の平均偏差値が45程度になるようにしなければならない。
	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.5以上 B：3.0以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	B	今年度は介護、医療や保育の分野などで事業所が受け入れしていただき、以前の形に戻りつつあり、生徒の進路に合わせた就業先の選定が行えた。満足度は3.0と昨年より下がったが、概ね高い評価であった。	少しずつではあるが、医療、介護などの分野も以前の形に戻ってきつつある。来年度はより生徒の進路に合わせた就業場所が確保できるよう、事業所の拡充を進めていき、目標値を達成したい。
	検定資格取得指導の充実	工業科検定資格取得、一人平均2種目以上を達成する。	C	結果が未発表の資格もあるが、現在、今年度の取得平均は1.5である。学年別取得平均は、1年生2.5、2年生0.9、3年生0.9である。1年生の取得率が減少しているが他の学年は微増している。ジュニアマイスター顕彰では、特別表彰1名、ゴールド6名、シルバー1名、ブロンズ1名で昨年に比べ減少している。	生徒数減少、検定料の増加、部活動等との兼ね合いで補習が必要な資格検定は受験者が減る傾向にある。特別教育や技能講習など他の活動に差し支えない資格の紹介や、全員受験する資格の合格率を上げていく必要がある。
人権・同和教育	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期一回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	C	「生活と人権に関するアンケート」を各学期1回行い、いじめに関する調査を行った。調査で気になった生徒については、その都度担任が聞き取りを行い、状況を確証し対応している。	「吉高人権だより」等を活用して、いじめ問題に対する啓発に努めるとともに、日ごろから生徒の動向に気を配り、教職員共通認識のもと、いじめの積極的認知・解消に努める。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間2回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	B	「吉高人権だより」を11回発行した。人権委員会は、全校集会での発表及び文化祭での展示の補助を行った。校内夏季研修会を開催した。また、宇和島地区高校生人権委員夏季研修会に参加した。	人権委員会の活動を、より生徒主体のものになるよう工夫していく。
	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	C	人権・同和教育ホームルーム活動は、公開授業期間中に実施したが保護者の参加は少なかった。	引き続きホームページや「吉高人権だより」を通して、取組を発信していく。
交流教育	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加、一人平均2回以上を達成する。（校内ボランティアも含む） A：全員達成(100%) B：270人(90%)以上 C：240人(80%)以上 D：210人(70%)以上 E：180人(60%)未満（全校生徒298人中）	D	身近なボランティア活動への参加が減少した。校内ボランティアも年間3回予定しているが、学年指定をする状況があり、数値が伸びなかった。ただし、個人や部活動単位での取組が見られたことは、次年度につながる。	地域ボランティアや校内活動の機会を提供し生徒一人一人が自発的に行えるようにしたい。ボランティアネットワークへの登録や依頼のあったボランティアの紹介をより積極的にスムーズに行う。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ200人以上を達成する。 A：200人以上 B：150人以上 C：100人以上 D：80人以上 E：100人未満	A	施設内での活動はできなかったが、廃材等から作成したクリスマスツリーをお届けする、季節のお便りを出す、という形で交流活動を行うことができた。	コロナは五類に移行したものの、福祉施設等での直接的な交流を行ってもよいかという心配や、施設での受け入れは可能なのか、といった課題が残っている。交流の方法を含めて、検討する余地があると考ええる。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
環境整備	公共物を大切に、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による学期1回の校内点検を実施する。美化委員会の発表を年間1回以上行う。	B	校内点検は、学期に1回の定期点検の他、随時清掃後の清掃状況の点検を行った。不十分な箇所について声かけを行い、校内美化に努めた。美化委員の発表では、5月の全校集において体育館で実施した。	清掃方法・ゴミの分別を徹底し、更なる校内美化に努める。また、美化委員会の活性化に努め、環境保護の意識の高揚を図る。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	B	学期に1回、年3回の定期点検の他、随時点検を行った。異常個所が1学期には20か所、2・3学期は各7か所の報告であった。改善が必要な箇所については早急な対応できた。	安全点検を確実にを行うため、目的の周知を図る。また、随時点検の実施や連携を行うことにより、素早い改善ができるよう努める。

<マニフェスト以外に関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えるとともに、教育相談窓口の周知に努め、教職員間の情報共有や、スクールライフアドバイザー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。	B	生徒個人面談等を通して、生徒一人一人の状況を把握し、悩みや問題などに対応するよう努めた。また、スクールライフアドバイザーとの連携により、生徒だけでなく保護者との相談も行い、家庭と協力して問題の解決に取り組むことができた。	教育相談窓口の一層の周知に努めるとともに、教職員間の情報共有や、スクールライフアドバイザー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識の高揚を図るとともに、生徒が主体的に行動に繋がられるよう生徒保健委員の活動を充実させる。	C	性教育講座や心とカラダのサポート講座などを、外部機関から講師を招き開催できた。また、保健だよりを毎月発行し、生徒保健委員がホームルームでその時期に合った内容の啓発を行うことができた。	引き続き生徒の健康意識を高められる機会の提供や啓発を行うとともに、生徒が行動に繋がられるよう、生徒保健委員の活動を充実させ、また、教職員間で連携を図って生徒に呼び掛けていく。
工業教育	ものづくりを通じた人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学年5回以上、匠の技教室等を年30回以上実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：30回以上(見学5回) B：25回以上(見学4回) C：20回以上(見学3回) D：15回以上(見学2回) E：10回未満(見学1回)	B	職場見学は両科合わせて6回実施した。また、インターンシップも滞りなく行えた。企業の方を招いた講習会は25回行った。開催形式はクラス単位もあれば資格受験者など多くの形が取れた。 高校生ものづくりコンテスト、若年者ものづくり競技会に参加し、建築大工部門で全国2位、3位と好成績を収めることができた。また、建築製図のコンテストにも全国入賞をすることができた。	コロナが第5類になり、外部との関わりも活発に行うことができた。外部講師を招いた講習会も数多くでき、今年度だけではなく来年度も継続的に行うことが大切である。 ものづくりコンテストに参加し、好成績を目指し放課後活動する生徒を増やしていく。
PTA活動	協体制のとれたPTA諸活動の実施	PTA諸活動(総会、交流会等)を保護者と協力して適切に行う。PTA理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	A	PTA会長さんを始めとする三役の方々を中心に、総会、理事会、体育祭等において連携して実施することができた。第1回理事会は、今年度コロナ禍以降初めての通常開催となり、出席率は76.7%と、縮小実施の昨年度より3%アップという結果だった。	理事会を通して、各活動を再び活性化できるよう、連携を強化する。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	生徒・職員からの要望の早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。	B	県費需用費上半期執行率81.4%(前年度88.8%)県費(公費)、私費ともに早期の予算執行を心掛けた。	物品購入希望調査等をおして要望を聞き、早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行う。
		職員間で連携し、適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	職員間で事務処理方法について日々確認及びダブルチェック等を行うことで、より適正な事務処理を行う。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間の適正化を図り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	教職員の業務の効率化に対する意識を向上もため「ノー残業デー」を設け、呼びかけや、勤務時間外在校等時間が長い職員に対し面談を行った。	業務の効率化とともに、教職員のウェルビーイング向上のための勤務時間の適正化の提案を進める。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	ヨガ講座を実施したところ、多くの参加者から身体的疲労の軽減や改善につながったとの反響が予想以上に大きかった。	健康講座や健康相談を継続する。

※ 評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。